

授業科目名	音楽と文化	教員名	小澤 真美子	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択必修
					小学校教諭	選択
科目番号	JIN106	配当年次	1年前期		幼稚園教諭	選択
					保育士	選択必修
授業形態	講義				こども音楽療育士	選択
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に定める 科目区分						
一般目標	「音楽と文化」では、音楽鑑賞を通して幅広い教養と豊かな人間性を身に付けることを目標とする。各時代の代表的な音楽作品を鑑賞し、作品や作曲家の時代背景を学ぶ。					
到達目標	(1) 音楽と文化の関連を理解する。 (2) 鑑賞のマナーを理解する。 (3) 各時代の音楽の特徴を理解する。 (4) 作曲家の人間像と作品の関連を理解する。 (5) 音楽の各ジャンルの特徴を理解する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	音楽、演劇、美術等の芸術は、人間が人生をよりよくするために存在する大切なものである。この授業では、音楽に関する幅広い知識や教養を深めるため、「知っておきたいクラシック音楽」の背景やその当時の文化との関わりを学んで鑑賞することにより、作品を聴き味わう。授業形態は講義とする。また、アクティブラーニングとして、授業の際に学んだことを確認する質問を行い、解答させることがある。					
履修条件・注意事項	特になし					
授業計画	第1回：オリエンテーション 音楽と文化の概要とクラシック音楽の鑑賞のマナーについて解説する。（目標(1) , (2), (3)） 第2回：古典派の音楽（1） 文化の担い手が王侯貴族から市民階級へと変わろうとしていた時代のウィーン古典派の作曲家についてと、モーツァルトのジグシュピール《魔笛》を題材にオペラについて解説する。（目標(3) (5)） 第3回：古典派の音楽（2） モーツァルトをテーマに描かれた映画「アマデウス」の抜粋鑑賞により、当時の生活文化や音楽家の立場についての理解を促す。（目標(3) (4)） 第4回：古典派の音楽（3） ソナタ形式とウィーン古典派を頂点に導いたベートーヴェンについて解説し、《交響曲第5番》の冒頭、および《交響曲第9番》の初演にまつわる物語の鑑賞によって理解を促す。（目標(3) (5)） 第5回：ロマン派の音楽（1） ロマン派時代の特徴を解説し、シューベルト《歌曲「魔王」》等の鑑賞を通して彼がドイツ・リートの大立者であることを解説する。（目標(3) (4) (5)） 第6回：ロマン派の音楽（2） ロマン派のピアノの発展について解説し、そのピアノを十分に生かした作曲家であるショパンの音楽から《幻想即興曲》等の鑑賞を通して理解を深めさせる。（目標(3) (4) (5)） 第7回：確認テスト（第1回～第6回）・ロマン派の音楽（3） 第1回～第6回の確認テストを行う。・ショパンを題材にした映画の抜粋鑑賞により、ショパンが祖国愛にあふれていることや時代に影響を受けていることについて理解を促す。（目標(3) (4)）					

授業計画	<p>(5)</p> <p>第8回：ロマン派の音楽（4） 作曲家シューマンのマスメディアとしての役割などについて解説し、その音楽を紹介する。また、ブラームスの人生や音楽についても解説する。（目標(3)(4)(5)）</p> <p>第9回：ロマン派の音楽（5）/バロック時代の音楽 ロマン派の作曲家メンデルスゾーンと、彼によって再認識されたバロック時代の作曲家、J.S. バッハについて、その音楽とともに解説する。（目標(3),(4),(5)）</p> <p>第10回：ロマン派の音楽（6） ピアノの魔術師、リストの音楽から《ラ・カンパネラ》を紹介し、彼がヴィルトゥオーゾとしての名声を伝説的にまで高めたことを解説する。また、楽劇王ワーグナーにつながる交響詩《前奏曲》についても解説する。（目標(3),(4),(5)）</p> <p>第11回：ロマン派の音楽（7） シュトラウスⅡ世の活躍と当時のヨーロッパ音楽界について解説する。また、《歌劇「椿姫」》を紹介し、イタリアオペラの作曲家、ヴェルディの偉業を解説する（目標(3),(4),(5)）</p> <p>第12回：ロマン派の音楽（8） イタリアオペラの作曲家、プッチーニについて解説し、《歌劇「蝶々夫人」》抜粋を紹介する。（目標(3),(4),(5)）</p> <p>第13回：ロマン派の音楽（9） フランスオペラの作曲家、ビゼーの音楽から《歌劇「カルメン」》抜粋を紹介する。（目標(3),(4),(5)）</p> <p>第14回：20世紀の音楽（1） モスクワ楽派についてと、チャイコフスキーについて解説し、3大バレエ音楽の一つである、《バレエ音楽「白鳥の湖」》を紹介する。（目標(3),(4),(5)）</p> <p>第15回：20世紀の音楽（2） ドビュッシー、ラヴェルの音楽鑑賞を通して、それまでの時代の作風との違いを解説する。また、20世紀の音楽について、ガーシュウィン、ケージ等の作曲技法についても作品紹介とともに解説する。（目標(3),(4),(5)）</p> <p>第16回：定期試験 第7回～第16回の内容について、試験を行う。</p>
授業外学修時間の確保について	授業内で紹介した音楽について、事後学習として週4時間以上の振り返り、および、指定した調べ学習を行うこと。
学生に対する評価	確認テスト及び定期試験（90%）・授業態度および出欠シート記入内容（10%）。 評価結果の学生へのフィードバックは、授業内で解説することとする。
テキスト	テキストは使用しないが、この授業専用に2穴のA4ファイルを準備し、毎回持参する。 (定期試験時はこのA4ファイルにファイリングしたプリントのみ、持ち込み可)
参考書・参考資料等	『クラシックの音楽の世界』田村和紀夫 著 新星出版社
担当者からのメッセージ	聞き慣れない言葉や作曲家も出てきますので、新しい知識を得る喜びを感じながら受講できる学生に、履修していただきたいと思っています。
オフィスアワー	毎週火曜日 16:20～17:00（メール等でアポイントメントを取ることが望ましい） Email:mozawa@miu.ac.jp
備考	特になし